

阿賀野川  
aganogawa E-toko dayoriここにあるすべてを、  
かけがえのない「宝もん」へ。

「新江用水の桜」(阿賀野市保田)

もくじ

特集1 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2019レポート  
【第3回】水の恵みの今昔・その光と影  
特集2 阿賀野川エコミュージアムを日指す流域  
令和元年度口バダン開催レポート  
新潟水俣病の学習用教材が完成!  
インフォメーション

## 阿賀野川流域の地域再生が10年を迎えて

この10年の成果を踏まえた  
新たな1年を迎えるに当たって

新潟水俣病問題が今も続く阿賀野川流域において「FM事業」(※1)と呼ばれる地域再生の取組がスタートしておよそ10年ほど経過しました。熊本県水俣市では、90年代初頭から「もやい直し」(※2)と呼ばれる地域再生の取組が始まっていますが、それらとは異なる阿賀流域らしい地域再生、いわば「新潟版」もやい直しとでも呼ぶべき独自の地域再生を進展させてきました。現在では、流域の今昔を多様な視点から学び直し機会を通じて新潟水俣病問題などの光と影を再発見するスタイルへと結果ましたが、その集大成とも制作され、阿賀野川流域市町の小・中学校に普及し始めています。この10年で様々な成果が充実してきました。今後も変わらぬご支援ご声援を、何とぞよろしくお願ひいたします。

第30号

2020.3.25

阿賀野川え～とこだ!流域通信

本サイトでは、流域イベント情報などを中心にほぼ毎日記事を更新しています。この春のイベント情報を始め、阿賀野川流域に関する情報を幅広く掲載していますので、ぜひご覧ください!

モバイル端末にも対応しています! 左のQRコードから読み込むか、「あがのがわ環境」で検索してください。

QRコード

新潟県公式ウェブサイト

イベント情報 四季の自然 ツアーアクティビティ 食・グルメ・産物 特集! 阿賀野川ものがたり 環境・地域再生 ネットショップ 流域スポット・施設案内

阿賀野川流域の  
情報発信サイト 阿賀野川え～とこだ!流域通信

パネル作品をネットで貸出中!

これまでFM事業で制作してきたパネル作品の貸出しは、「阿賀野川え～とこだ!流域通信」からお申し込みできます!

ご興味をお持ちの方は、「阿賀野川え～とこだ!流域通信」にアクセスしてください。

H30 H29 H28 H27 H26

## 「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

## 阿賀野川え～とこだ!憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

## 阿賀野川え～とこだより 第30号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2020年3月25日  
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424  
aganogawa@niigata.email.ne.jp

## 編集後記

第30号はいかがでしたでしょうか? 令和元年度は、最後に新型コロナウイルスの影響を受けましたが、年間を通してみると、新しい試み「阿賀野川流域再発見・連続ツアー講座『阿賀野川ものがたり』」をのべ6日間、452名の方々にご参加いただき開催することができました。

なお、来年度から「阿賀野川え～とこだより」の発行は年2回となります。次号は10月ころの発行を予定しています。

今号表紙の写真「新江用水の桜」  
江戸期に開削された新江用水は、阿賀野川と並行して流れ、下流に至る阿賀野川右岸沿いの田畠を潤しています。昔から桜の名所として知られ、現在の桜も昭和55年に旧安田町制20周年を記念して、两岸に植えられました。

阿賀野川え～とこだ!流域通信  
<https://aganogawa.info/>



### 水の恵みの今昔・その光と影

第3回

座学 10/26(土) 10:50 ツア 10/27(日) 14:30 9:10 16:20

視察スポット一覧

**2日目(10/27)ツアー**

**津島屋船溜り**

▲ここではかつて川漁がさかんに行われ、50~60年以前は阿賀野川の川魚を食べる食生活が当たり前でした。

**環境と人間のふれあい館**

▲新潟県が運営する公害資料館で、阿賀野川流域で今も続く新潟水俣病問題に関係する展示などを見学できます。

**福島潟**

▲多様な生物の宝庫・自然豊かな湿地である福島潟を、佐藤安男さんなど水の駅「ビュー福島潟」のレンジャーが案内してもらい、その巧みな解説を聞きながら新潟市最大の潟湖を散策しました。

**小阿賀野川の鮭ウライ漁**

▲阿賀野川から分流する小阿賀野川では、満願寺の小阿賀樋門に入ったすぐの地点で、秋の早朝に鮭のウライ漁が行われています(※阿賀野川漁業協同組合&新津鮭増殖組合が鮭を増殖するために毎年実施)。私たちも、このウライ漁で捕れた阿賀野川の恵みをいただきました。

▲阿賀野川の豪華な粗食弁当

▲阿賀野川の豪華な粗食弁当

**1日目(10/26)座学**

▲午前は水の駅「ビュー福島潟」にて佐藤安男さんから福島潟をテーマに、午後は「環境と人間のふれあい館」で川漁と新潟水俣病をテーマに座学を行いました。

●**今日は、阿賀野川流域の恵みと公害！**

●**阿賀野川漁業協同組合さん、新津鮭増殖組合さん、国土交通省北陸地方整備局の阿賀野川河川事務所さん、新潟市北区郷土博物館さんにもご協力いただきました。**

●**水の駅「ビュー福島潟」事務局長 佐藤安男氏**  
今回もバズ内のガイドを担当して、阿賀野川流域の自然などを解説していただきました。

参加者の主な感想等

- 福島潟は自然保護だけでなく、活用などの取組もよくわかり、認識を新たにした。(阿賀野市・70代)
- 水俣病など過去の犠牲によって現在の環境が保たれているのは、悲しい歴史である。(北区・60代)
- ウライ漁が身近にあるとは全く知らなかった。川の恵みをどう持続させるか、考えさせられた。(東区・40代)
- 福島潟を守っている人がいるからこそ、美しい自然を楽しむことができると実感しました。(東区・50代)
- 北区郷土博物館では、水びたしの大地で工夫し助け合ってきた人々の暮らしがわかった。(中央区・70代)
- ふれあい館で新潟水俣病を学べて良かった。身近に起きた公害なのによく知らなかった。(北区・60代)



### 2019 阿賀流域再発見・連続ツアー講座「阿賀野川ものがたり」

主催●新潟県 共催●新潟市 後援●五泉市・阿賀野市・阿賀町 協力●水の駅「ビュー福島潟」 企画・運営●一般社団法人 あがのくわ環境学舎

大型バス2台でめぐる！



# 水との闘い 水の恵み

阿賀野川の築堤工事(阿賀野市・大正後期～昭和初期／広田哲男氏提供)

### 第3回:水の恵みの今昔・その光と影

日時:令和元年10月26日(土)&27日(日) 142名参加

場所:環境と人間のふれあい館&水の駅「ビュー福島潟」

両日のべ

142名参加

開催レポート！

※P2～3におけるクレジット表記のない写真のうち、10月26日(土)の写真は山口冬人氏(IPS公益社団法人日本写真家協会会員)が撮影、10月27日(日)の写真は片桐淳氏が撮影したものです。

これまで毎年度開催されてきた地域の皆さんから学んでいただくため、阿賀流域の歴史や文化、光と影を流れる講座を、今年度は「阿賀流域再発見・連続ツアー講座」とスケールアップさせ、年間テーマを決めて年3回・計6日にわたって開催しました。今年度の年間テーマは「水との闘い・水の恵み」。その第3回目となる「水の恵みの今昔・その光と影」をテーマとした座学やツアーが、さる10月26日(土)・27日(日)に開催され、2日間でのべ142名の皆さんからご参加いただきました(※年間参加者はのべ452名でした)。

※本連続ツアー講座はすでにすべての回が終了しています。

### 第1回 大河によって形成された大地

座学 7/6(土) 10:50 ツア 7/7(日) 9:10 14:30



162名

### 第2回 水びたしの大地との闘い

座学 9/7(土) 10:50 ツア 9/8(日) 9:10 16:20



148名

### 第3回 水の恵みの今昔・その光と影

座学 10/26(土) 10:50 ツア 10/27(日) 9:10 14:30



142名



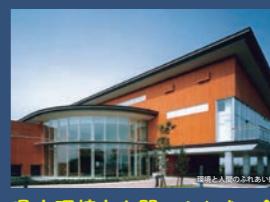
#### 今回の豪華な粗食は、ケータリング！

今回の豪華な粗食は、目にも鮮やかなケータリングを提供する「watago FOOD & ETHICAL」さん(新潟市江南区亀田)にお願いしました。流域の旬の食材をふんだんに使った、お弁当やケータリング形式のランチをご楽しみいただけました！

▶旧善光寺出身の天野さん(左) & 寺田さんのチーム  
(写真: watago FOOD & ETHICAL 提供)

#### 福島潟のほとりに立つ、2つの環境学習施設も協力！

今年度から、福島潟のほとりに拠点をかまえ、阿賀野川流域の水環境などに詳しい2つの施設が会場となって、知識と経験が豊富なスタッフがパーソナリティも務めます。



県立環境と人間のふれあい館  
-新潟水俣病資料館-



水の駅「ビュー福島潟」